

News Release

株式会社山陰合同銀行

〒690-0062 島根県松江市魚町 10
TEL.0852-55-1000
https://www.gogin.co.jp

2022年7月7日

山陰企業への「最近の物価高騰等に関する実態調査」結果 ～87.2%の企業で平時と比べ、原材料・仕入値（総額）が上昇したと回答～

山陰合同銀行では、先月、山陰両県の主要企業を対象に、「最近の物価高騰等に関する実態調査」を実施し、この度、同調査結果を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

本調査は、「物価高騰や円安、供給制約等が当地企業の経営に与えている影響の把握」を通じて、その実態を明らかにするとともに、その結果を皆様と情報共有すること、及び当行の諸施策に活用していくことを目的に実施したものです。

これからも当行は、調査結果を踏まえたお取引先企業の資金繰り支援や各種コンサルティング活動などに積極的に取り組んでまいります。

記

1. 調査概要

- 調査時期 : 2022年5月30日～2022年6月17日
- 調査方法 : webによるアンケート
- 対象先 : 山陰両県の主要企業 1,190社（回収率 36.6%、435社）

2. 結果概要

原材料・仕入値（総額） の変化	・「10～20%程度上昇」が34.5%と最多 ・87.2%の企業で平時と比べ、上昇
原材料・仕入値が上昇 している品目	・「電力・ガス」が52.5%と最多で半数以上 (製造業では61.5%、非製造業では44.5%)
原材料・仕入値上昇の背景	・「ロシアによるウクライナ侵攻」が50.9%と最多で半数以上 (製造業では49.7%、非製造業では52.0%)

調査結果の概要[※]については、山陰合同銀行HP-「山陰の経済情報」

(URL: <https://www.gogin.co.jp/economy/>) ⇒ 「その他の調査結果」をクリックをご覧ください。

※調査結果については【概要版】と【詳細版】を掲載しております。

【詳細版】についてはアンケート回答企業様のみ閲覧可能としております。

以上

最近の物価高騰等に関する実態調査

2022年7月7日

山陰合同銀行 地域振興部

産業調査グループ

《調査概要》

調査対象先1,190社、回答企業数435社（回収率36.6%）

鳥取県178社、島根県257社

原材料・仕入値（総額）の変化

全体では、「10～20%程度上昇」が34.5%と最も高くなった。

（業種別：製造業40.6%、非製造業29.8%）

原材料・仕入値が上昇している品目

全体では、「電力・ガス」が52.5%と最も高くなった。

（業種別：製造業61.5%、非製造業44.5%）

原材料・仕入値上昇の背景

全体では、「ロシアによるウクライナ侵攻」が50.9%と最も高くなった。

（業種別：製造業49.7%、非製造業52.0%）

◎ 調査の概要

- 1.調査時期 : 2022年5月30日から6月17日
- 2.調査方法 : webによるアンケート
(対象先) 山陰両県の主要企業1,190社
- 3.回答企業数 : 435社 (回収率36.6%)
(うち鳥取県178社、島根県257社)
(うち大企業49社、中小企業386社)

業種	構成比(%)
製造業	43.0
食料品	8.0
繊維品	1.8
木材・木製品	2.5
パルプ・紙	1.1
窯業・土石	4.1
鉄鋼・金属	7.1
一般機械等	4.1
電気機械	6.0
輸送機械	2.8
その他製造	5.3

業種	構成比(%)
非製造業	57.0
建設業	15.2
卸売業	11.3
小売業	9.7
うち百貨店・スーパー	2.5
サービス業	20.9
運輸	2.3
情報通信	2.8
飲食店・宿泊	2.8
他のサービス	13.1
全産業	100.0

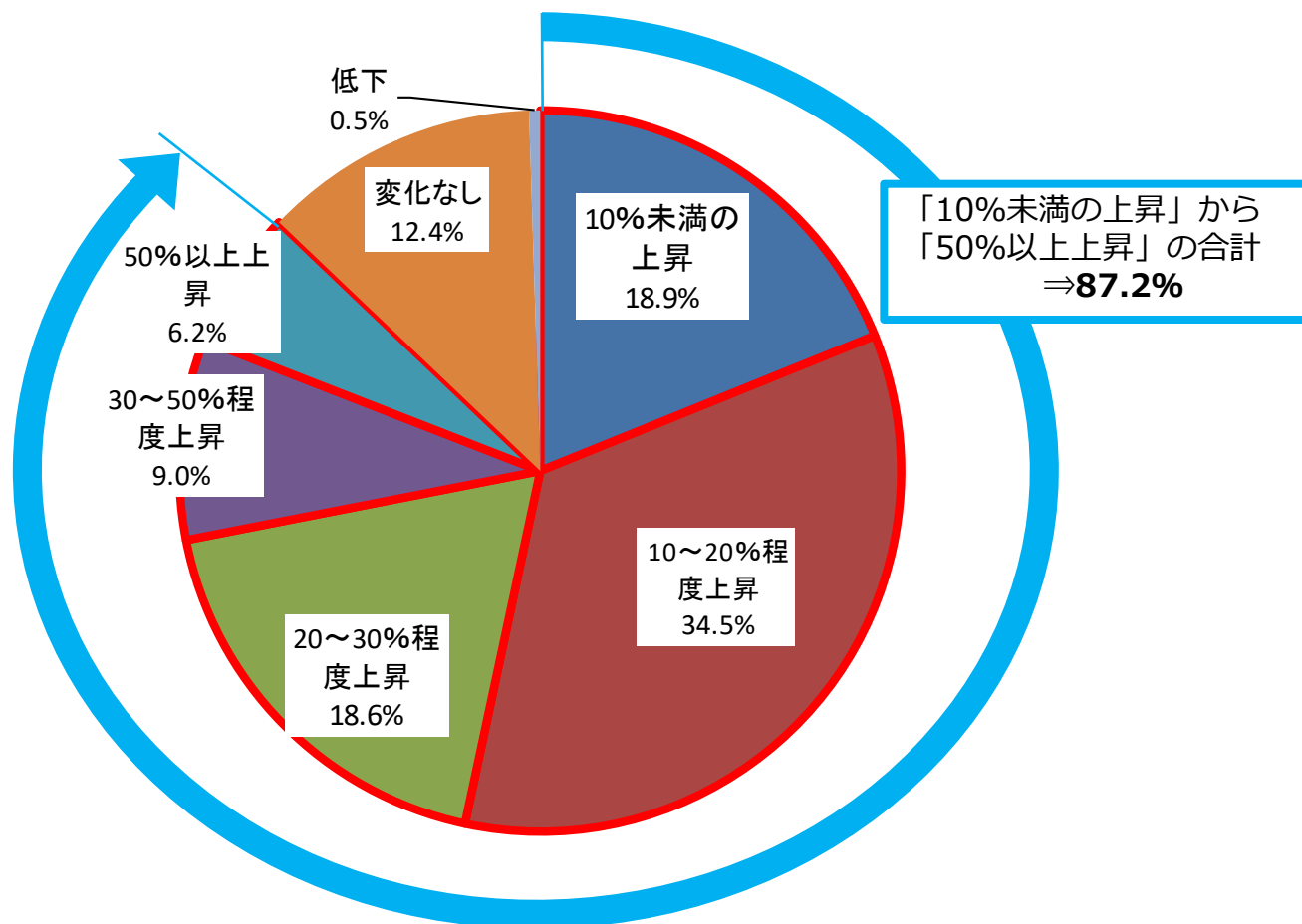
※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある、以下同じ。

1-1.原材料・仕入値（総額）の変化

【原材料・仕入値（総額）の変化】

全体では平時と比べて「10～20%程度上昇（34.5%）」が最も高く、「10%未満の上昇（18.9%）」、「20～30%程度上昇（18.6%）」などと続いている。
また、「10%未満の上昇」から「50%以上上昇」の合計は**87.2%**となった。

図表1. 原材料・仕入値（総額）の変化（n=435社）

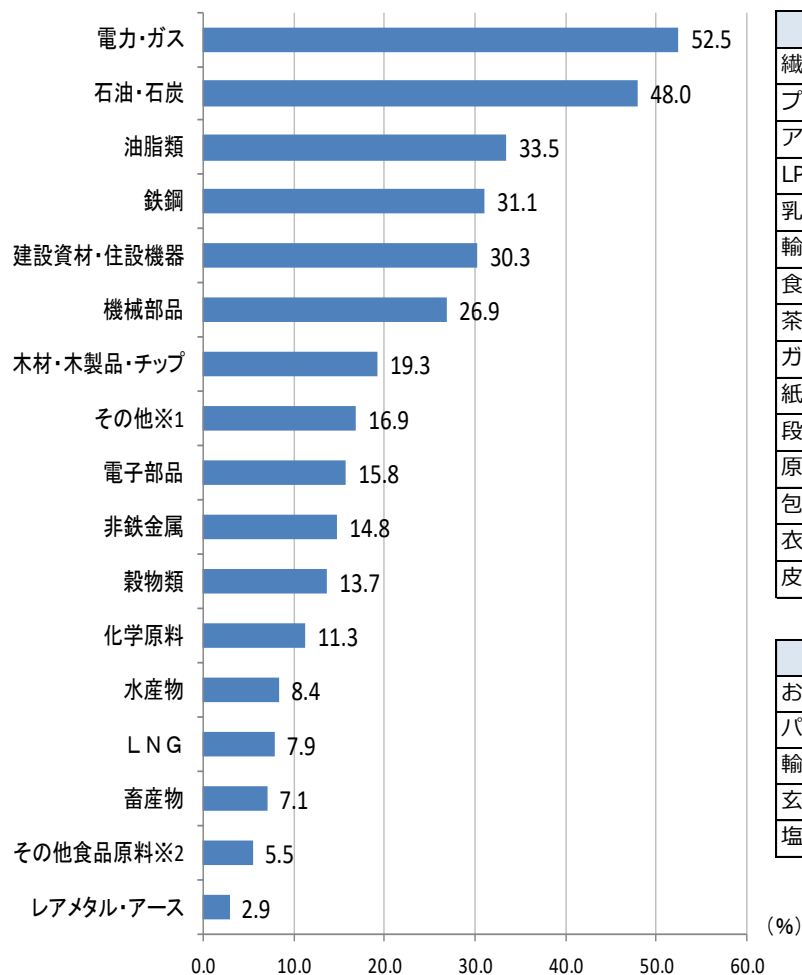


1.山陰全体の動向（2）原材料・仕入値が上昇している品目

【原材料・仕入値が上昇している品目】

全体では、「電力・ガス（52.5%）」が最も高く、「石油・石炭（48.0%）」、「油脂類（33.5%）」などと続いている。

図表2. 原材料・仕入値が上昇している品目（複数回答、該当全て）（n=379社）



※1「その他」と回答した先の記述内容		
繊維	写真関連商品	海上運賃
プラスチック製品	情報通信機器類	軽油
アルコール飲料	融雪剤関連	繊維製品
LPG	溶剤	食油
乳製品	消防資機材	セメント
輸入品	接着剤	自動車排ガス規制関連品
食品トレー他	消耗品全般	農業資材
茶袋等資材	輸送関係費用	切削工具
ガラス瓶	繊維類	硝子製品
紙類（原紙、印刷用紙等）	石材全般（天然石等含む）	加工食品
段ボール	パルプ	酒類など製品
原反	印刷物	肥料
包装用資材	砂	インク
衣料品	砕石	ガソリン
皮革製品		

※2「その他食品原料」と回答した先の記述内容		
お茶	コーヒー等	青果物
パン等各種食料品	冷凍食品	寒天、はちみつ、水あめ
輸入品	野菜（輸入含む）	原材料（野菜、油等）
玄米、ソフトクリーム原料・材料	冷凍野菜	果実類
塩、砂糖等調味料	包装資材	

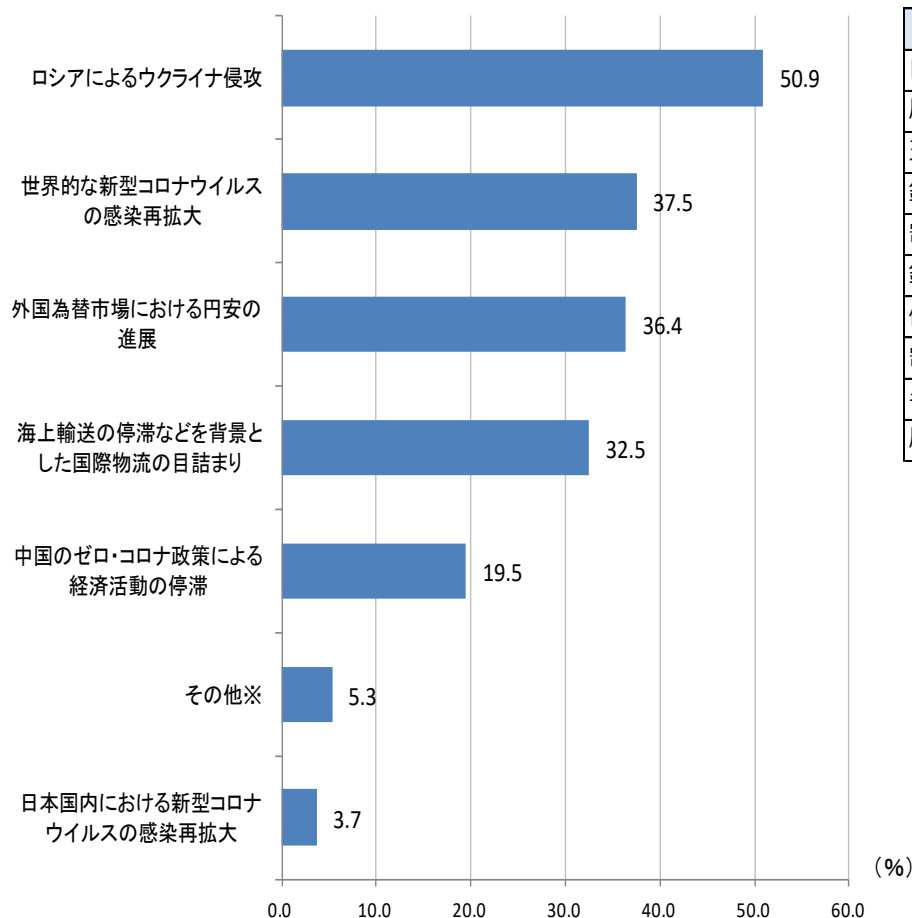
(注) 図表2は図表1で「低下」、「変化なし」と回答していない先に尋ねた結果。

1.山陰全体の動向（3） 原材料・仕入値上昇の背景

【原材料・仕入値上昇の背景】

「ロシアによるウクライナ侵攻（50.9%）」が最も高く、「世界的な新型コロナウイルスの感染再拡大（37.5%）」などと続いている。

図表3. 原材料・仕入値上昇の背景（複数回答、2つまで）（n=379社）



※「その他」と回答した先の記述内容	
自動車産業の活性化	カーボンニュートラルへの動き
原料となる鉄鉱石や石炭の価格高騰	コロナの諸影響による原油価格上昇
天候不順	市の財政負担増加
鉄鋼主原料の高騰	各生産工程での原油高によるコスト増
需要の減少	脱炭素
鉄鋼メーカーの方針	生産国外交問題による原料生産滞り
働き方改革	ウッドショック
需要減、アルミ価格高騰	日本が他国に買い負けている
半導体問題	原油や原料高騰、運賃等コストアップ
原油他、輸入原料の価格上昇	アメリカのインフレ

(注) 図表3は図表1で「低下」、「変化なし」と回答していない先に尋ねた結果。

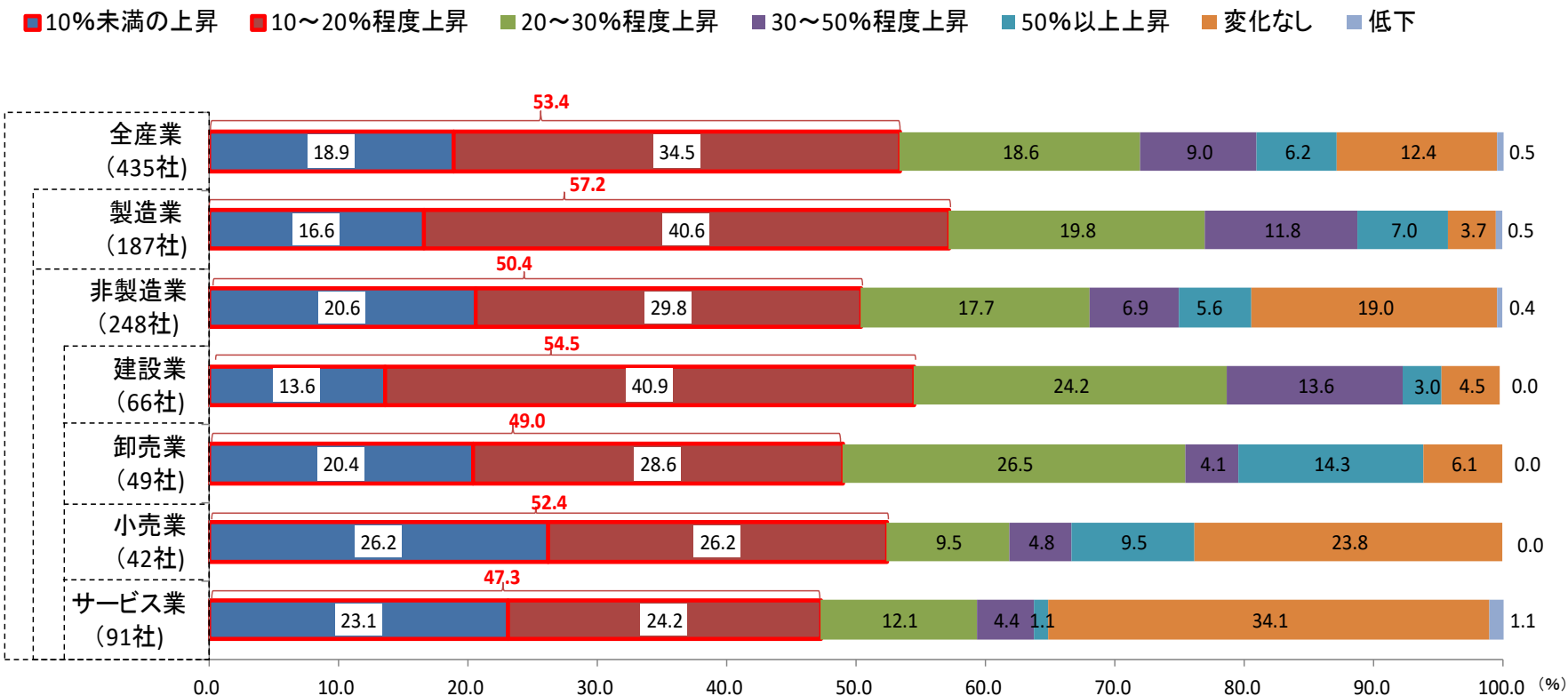
2.業種別の動向（1）原材料・仕入値（総額）の変化

【原材料・仕入値（総額）の変化】

全体では「10～20%程度上昇（34.5%）」が最も高くなっている。「10%未満の上昇（18.9%）」と合わせた回答割合は、約半数（53.4%）となっている。

業種別では「50%以上上昇」が卸売業で14.3%、小売業で9.5%となっており、一部の業種で原材料・仕入値が大幅に上昇している様子がうかがえる。

図表4. 原材料・仕入値（総額）の変化（n=435社）



2.業種別の動向（2）原材料・仕入値が上昇している品目

【原材料・仕入値が上昇している品目】

製造業は「電力・ガス（製造業：61.5%、非製造業：44.5%）」が最も高く、非製造業は「石油・石炭（製造業：45.8%、非製造業：50.0%）」が最も高くなっており、両業種ともにエネルギー関係の割合が高くなっている。

図表5. 原材料・仕入値が上昇している品目（複数回答、該当全て）（n=379社）

(単位：%)

業種	回答項目 (社数)	電力・ガス	石油・石炭	油脂類	鉄鋼	建設資材・ 住設機器	機械部品	木材・木製 品・チップ	その他	電子部品	非鉄金属	穀物類	化学原料	水産物	LNG	畜産物	その他食品 原料	レアメタル・ アース
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)
全産業	(379社)	52.5	48.0	33.5	31.1	30.3	26.9	19.3	16.9	15.8	14.8	13.7	11.3	8.4	7.9	7.1	5.5	2.9
製造業	(179社)	61.5	45.8	35.8	38.0	12.8	31.3	14.5	22.9	18.4	21.2	12.3	19.6	7.3	10.1	3.9	5.0	5.0
非製造業	(200社)	44.5	50.0	31.5	25.0	46.0	23.0	23.5	11.5	13.5	9.0	15.0	4.0	9.5	6.0	10.0	6.0	1.0
建設業	(63社)	30.2	41.3	23.8	57.1	90.5	25.4	55.6	1.6	19.0	14.3	3.2	6.3	0.0	1.6	0.0	0.0	1.6
卸売業	(46社)	39.1	43.5	26.1	17.4	28.3	17.4	13.0	26.1	8.7	17.4	17.4	6.5	6.5	4.3	8.7	13.0	2.2
小売業	(32社)	59.4	62.5	43.8	12.5	18.8	18.8	9.4	18.8	12.5	0.0	25.0	3.1	12.5	18.8	15.6	12.5	0.0
サービス業	(59社)	55.9	57.6	37.3	3.4	27.1	27.1	5.1	6.8	11.9	1.7	20.3	0.0	20.3	5.1	18.6	3.4	0.0

※各業種の上位3項目を赤字にしている。()内は順位を示している。

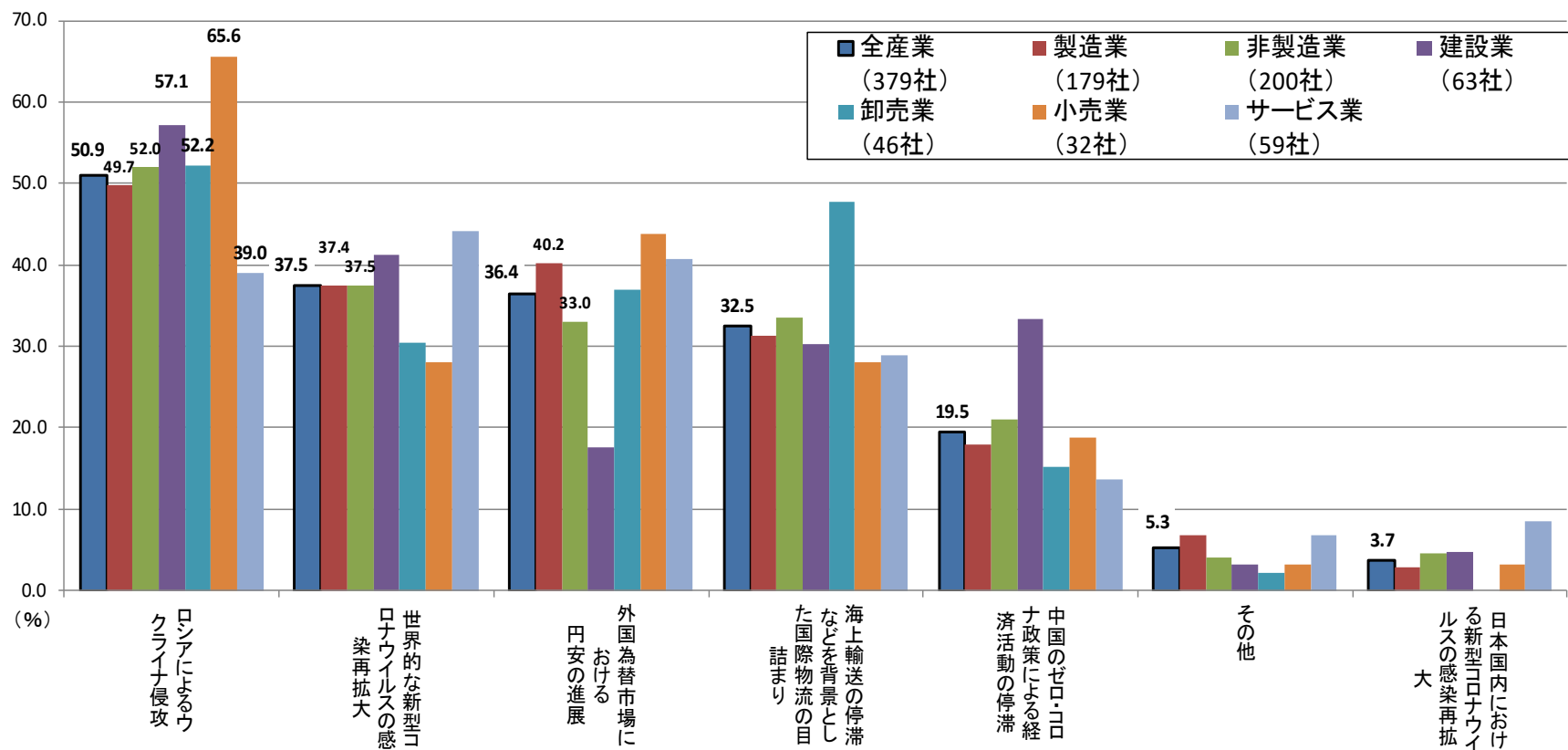
(注) 図表5は図表1で「低下」、「変化なし」と回答していない先に尋ねた結果。

2.業種別の動向 (3) 原材料・仕入値上昇の背景

【原材料・仕入値上昇の背景】

全体、製造、非製造業いずれも「ロシアによるウクライナ侵攻（全体：50.9%、製造業：49.7%、非製造業：52.0%）」が最も高く、続いて製造業は「外国為替市場における円安の進展（製造業40.2%、非製造業：33.0%）」、非製造業は「世界的な新型コロナウイルスの感染再拡大（製造業：37.4%、非製造業：37.5%）」などとなっている。

図表6. 原材料・仕入値上昇の背景（複数回答、2つまで）（n=379社）



(注) 図表6は図表1で「低下」、「変化なし」と回答していない先に尋ねた結果。